

## 中国研究所×笹川平和財団シンポジウム「2025年の世界と日中米関係」

### 第2回「戦後80年と歴史言説／歴史戦」開催のお知らせ

日時 2025年2月18日(火) 18:00~20:00  
会場 笹川平和財団ビル 11階 国際会議場 (<https://www.spf.org/about/access/>)  
方法 対面・オンライン (Zoom ウェビナー) 併用  
パネリスト 江藤名保子 (学習院大学)  
宮本 悟 (聖学院大学)  
河西陽平 (中曽根平和研究所)  
企画統括・司会 川島 真 (中国研究所・東京大学)

参加費は無料です。

参加をご希望の方は、参加方法に合わせてこちらからお申し込みください。

◆会場での対面参加 [https://f.msgs.jp/webapp/form/19951\\_jndb\\_1114/index.do](https://f.msgs.jp/webapp/form/19951_jndb_1114/index.do)

◆オンライン参加 [https://f.msgs.jp/webapp/form/19951\\_jndb\\_1113/index.do](https://f.msgs.jp/webapp/form/19951_jndb_1113/index.do)

申し込み締切は2月17日(月)

#### 開催趣旨

2025年は戦後80年にあたります。秩序変動期の中で歴史をめぐる問題が、相貌を変えながら、いっそう大きな課題となりつつあります。中国とロシアはそれぞれの「正しい」歴史を唱えつつ、第二次世界大戦をめぐる歴史戦での共闘を約しています。また、新たな歴史ナラティブを創出して、それを多様な手段で世界に広め、「工作」対象に受け入れさせようとしています。これは中国、ロシアだけでなく北朝鮮も同様です。かつて中国や周辺地域を侵略した日本は、加害国としてこうした歴史をめぐる状況をいかに捉え、対処していくべきなのでしょう。この問題を考える時、やはり単純に「歴史戦」などとして括るのではなく、それらの国々がそもそも国内でどのような歴史政策を実施しているのかということ踏まえた上で、それが対外的な歴史戦とされる事象とどのような関わりをもつのか、ということを理解することが必要だと考えます。

これらのことを踏まえ、第2回では戦後80年にあたる2025年の歴史をめぐる問題の有りようについても併せて取り上げていきます。

問い合わせ先 一般社団法人中国研究所 事務局(総務) [c-soumu@tcn-catv.ne.jp](mailto:c-soumu@tcn-catv.ne.jp)

ホームページ <https://www.institute-of-chinese-affairs.com>